

第1回浜松市立中学校における制服のあり方検討委員会 会議録概要（説明及び協議）

1 説明

※資料1、資料2に基づき事務局から説明、その後質疑応答

（ミライ制服すすめ団 夏目団長）

- ・ 検討委員会の設置に至る経緯など伺いたい。もう一つ、最終的なゴールをどこにしながらお話されるのかという、具体的な形を伺えればと思う。

（事務局）

- ・ 設置の経緯については、要望書の提出を受けた際に、教育長から制服の見直しに係る問題を教育委員会の方でも主導して考えていく必要があるという考え方をお示しさせていただいた。そのため、今回検討委員会の設置に至った次第である。

（奥家委員長）

- ・ もう一点、検討のゴールというお話であるが、この後有識者の皆さん、委員の皆さんからそれぞれ現状において感じていらっしゃる事、問題点等をお話していただく予定である。そうした中から論点というものが、おそらくいくつか出てくると思う。
- ・ いわゆる制度やルールのようなものを決めていくというのは、一つのゴールとして想定される部分ではあるが、そのあたりは今後の論点の洗い出しの中で決めていくということもあると思っている。
- ・ 現状では、これをここで決めていくというものは、今のところ検討委員会としてまだないということでご理解いただければと思う。

（ミライ制服すすめ団 夏目団長）

- ・ アンケートや検討スケジュールは、これからの検討内容によるということによいか。

（奥家委員長）

- ・ 委員会は今年度4回を想定しており、おおよそこのような形で進められるとよいと思っている。
- ・ アンケートについては、基本的にはこれをベースに実施をさせていただきたいと思うが、ご意見をできる限り反映しながら修正をかけていきたいと思っている。
- ・ それぞれのステークホルダーの中でどのような意見が出てくるのかというのも、アンケートを集約する中で見えてくるのではないかと、それも踏まえてここでの議論の材料にしていきたいと思っている。
- ・ 来年度も引き続き検討を進めるということも、検討の状況によっては十分あり得るのではないかと考えている。

（ミライ制服すすめ団 夏目団長）

この会議の議事録はどのように公開されるのか。

(事務局)

- ・ 議事録については、皆さんに事前確認いただいた上で、今日お配りした資料と合わせできる限り公開していければと思っている。

(奥家委員長)

- ・ 非常に関心の高い内容であるため、情報をきちんと出していくということは必要だと思っている。議事録については、録音の一言一句という形で表記していくということよりは、趣旨が変わらない範囲の中である程度要約をさせていただく形で作っていきたいと思う。
- ・ 氏名公表については、皆さんのコンセンサスを得た中で決めさせていただく。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 今年度4回ですべての議論を終えて、すぐスタートということではない、という理解でよいか。

(奥家委員長)

- ・ 日程に追われながら議論をしていくということは避けたいというか、もっと幅広にいろんな要素が出てくると思われるため、非常に大事に議論を進めていきたいと思っている。

2 協 議

(1) 制服の状況等について

(奥家委員長)

- ・ 本日の協議は、制服の状況等についてと、それぞれのステークホルダーがどんな意見、考えをお持ちなのかというリサーチをかけていきたいということの2点である。
- ・ まず事務局の方から制服の状況等について、資料3に基づいて説明する。
- ・ ただ今、国の動きや本市の制服の見直しに係る状況等について説明を申し上げたが、それぞれの皆さんがお持ちになっている、制服のあり方等についての思いをお伺いできればと思う。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ もう既に見直しがされている4割の学校では、詰襟・セーラー服からブレザータイプに変更となっているが、これは全部の学校がそうなのか。詰襟・セーラー服から新しい形の詰襟・セーラー服へ変更したという学校はあるか。

(事務局)

詰襟・セーラー服から見直した学校は、ブレザータイプを選択している。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ ブレザータイプになったその後のルールはどうなっているか。今まで女子はセーラー服、男子が詰襟しか認められていなかったものがそのまま、女子はリボンにスカート、男子はネクタイにパンツという形しか認められていないのか。それとも女子のスカートに加えて、女子用スラックスの選択肢を増やす形になったのか。性別を問わずパーツごとに、子供たち自身が自由に

選択できる形となっているのか。どのような感じか。

(事務局)

- ・ 詳細には調査していないが、既にブレザータイプを導入していた学校は、最初は女子用のスラックスを導入するという見直しをしている。
- ・ 制服の男女表記を無くすという取組が進んだため、女子用スラックスという形ではなく、男女という区別のない、例えば1型2型とかA型B型というようなブレザータイプを導入している学校があるということは聞いている。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 男女表記を無くしても、女性型と男性型がはっきり分かるようなセットを組んであれば、子供たちや保護者は戸籍の性別に沿ったものを選択しなければいけないと思ってしまう。新しい制服の種類やデザインはもちろん、どんなルールになるのかということも重要だと思っている。
- ・ 学校には様々なセクシュアリティの子供たちがいて、ともに生活をしているという状況がある。戸籍の性別だけで子供たちを男女二つに分けるということ自体、もう無理があるのではないかとと思っている。
- ・ トランスジェンダーの子供たちが求めているのは、一つは自身のジェンダーアイデンティティに沿わない制服の強制をやめてほしいということ、それともう一つは自身のアイデンティティに沿った制服が着られることである。
- ・ トランスジェンダーの女子にスラックスの強制をやめて、性自認に沿ってスカートが選択できるようにすること、トランスジェンダーの男子にスカートの強制をやめて、性自認に沿ってスラックスが選択できるようにすることが必要。要は戸籍の性別ではなく、その子の性自認や生活実態に合わせた服装をその子自身が選択できるということは、その子の権利だということ。それは、シスジェンダー（生まれたときに割り当てられた性別と性自認が同じ人たちのことをシスジェンダーと言うが）の女の子がスカートを履く、シスジェンダーの男の子がスラックスを履くということと同じことである。
- ・ そして、ノンバイナリーの子供がノンバイナリーな制服が着られること、これも同じように権利だということである。人間は全員男女二つに分けられると思うかもしれないが、必ずしもそうではない。ノンバイナリーやXジェンダーと言われるが、自分の性のあり方を男女どちらでもある、男女どちらでもない、決められない、決めたくない、動いている、など、様々ある。そのような性自認を持っている子供たちが、自身の性自認に合わせた制服がきちんと選択できることは重要である。そういう子供たちにもシスジェンダーやトランスジェンダーの子供と同じ権利がある。
- ・ 新しい制服のあり方を考えるときに、セクシュアルマイノリティへの配慮ということが、特に新聞記事などに大きく書かれるが、それは違うと思う。セクシュアルマイノリティの子供たちへの特別な配慮ではなくて、全ての子供たちへの当たり前の権利という前提で、一緒に考えられたらいいと思っている。

(奥家委員長)

- ・ 体の性は男の子で性自認が女の子という生徒が、制服はスカートを選択していて、学校も周り

の友達もそれを正しく受け入れて認めて、学校生活が正常に営まれているという事例が市内の中学校で既にあることから、そうしたものが広がっていく土壌は整っているとは思う。

- ・ 事務局に確認するが、男の子の制服はこれということではなく、基本的には1型2型というのはあるにしろ、組み合わせそのものに定めはあるのか。

(事務局)

- ・ 制服の作りとして、女性の体型に合ったもの、男性の体型に合ったものということで型を分けているが、そのどちらを選ぶかについては、学校として禁止しているものではないと聞いている。
- ・ 型が2つあるが、男性用と女性用で分けているものではなく、自分で選択できるようにしているとのことである。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 本当にそうになっているのか。本当に自分の意思で自由に選んでいるのかというところは、少し疑問である。

(奥家委員長)

- ・ 考え方はそんなに違った方向ではないと思うが、その表現の仕方や提示の仕方については、もう少し工夫が必要ではないかと思う。いくらサンプルだといっても、なんとなくサンプルに引っ張られるというところがあるため、そのあたりをどのようにするか。
- ・ 例えば、上はこれだけ、下はズボンとスカートがあって、ここから上と下を1つずつ選ぶというのも、一つのプレゼンの仕方としてはあるかもしれない。これは今後の話にはなると思う。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 奥家委員長が言われたソフトの部分はとても重要だと思う。例えば、入学前に制服のサイズを測りに行く洋品店のマネキンの展示方法や注文書の作り方、小学校が新中学生に配るプリントなどに、既存の男女別のジェンダーバイアスが反映されていて、子ども自身が自分に正直に選択できないことがあると思う。
- ・ こうした現状を具体的に変えるために、市教委としての方向性をはっきりと打ち出す、そこまで一緒にやっていきたいと思っている。そんなところからみんなの生きやすさに繋がっていくのではないかと思う。

(奥家委員長)

- ・ セクシュアルマイノリティへの配慮としてこのような制度を設けていくということができるだけ表現しないということをご指摘いただいた。
- ・ 弱いところをやるためにここを鼓舞してやっていかなければならないということで、このような言い方が出てきやすいのだが、セクシュアルマイノリティという言葉自体もできるだけなくなっていけばいいと思う。
- ・ 基本的にはみんな自由で、誰でも同じベースに立っているに過ぎないという認識をされていく一つのモデルとして制服が役割を果たせるようになるのであれば、意味は大きいと思う。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 今も実際にある差別を正していくために、セクシュアルマイノリティやトランスジェンダーの子供たちの声を聞くことはとても大事なことであるため、それをお伝えしていきたいと思っている。
- ・ マイノリティの子ども達の声も取り入れて、みんなが着られる制服になるように、みんなが安心安全に生きられる学校になるといいと思っている。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ 1月25日に要望書を提出させていただいた。私たちは統一制服が必要だと要望したが、その結果立ち上がったのが「制服のあり方検討委員会」ということが、私はすごく興味深い、嬉しいことだと思った。
- ・ 制服がそもそも何のためにあるのか、それがわからないと今の状況に対して何が問題で、何を課題とすればよいか分からない。この会で検討するにあたって、掘って立つ根拠が今の段階ではどうしても見当たらない。誰のために話をしているのかということ、先に検討委員会で話ができたかと思っている。
- ・ あとは、みんなにアンケートを取るというよりは、鈴木げんさんがおっしゃったように、困っている人たちの声というのをやっぱり積極的に聞いていく必要があると思っている。
- ・ まずは制服が高いということがある。すすめ団の資料の価格表を見ていただくとお分かりになると思うが、これは今年の春に中1となった男子が実際に揃えた納品書をお借りしたものである。学生服上下だけでこのお店の場合は4万1,300円かかっている。一方でリユース制服にした場合は、上下で600円になる。
- ・ ほとんど着られていない学生服はそんなに汚くなく、多少汚かったとしても少ししか着ないから我慢するというように、子供たちはそんなに気にしないことが多い。親としてはやはり新品を着させたいということがあって、新品を着る人ももちろんいるが、リユース制服に関して他の学区からの問い合わせが結構ある。
- ・ 個別の制服さえなくなれば、制服の統一さえできれば、ずいぶんリユースは進めることができるし、参入することができる。あるクリーニング店は、制服が統一されれば自分たちも中古制服の事業をやりたいと思うが、今のこの状態では1校1校が違うので、どうしても踏み出せないという話をされていた。そういったことによって、新品も買うことができるし、中古を買うことができるという選択もできるようになる。
- ・ もう一つは、先ほど鈴木げんさんがおっしゃったように、性の多様性に対応したものを、市の主導で提案することができる。各学校で見直したけれどもまだ不備があった、かゆいところに手が届かない状態だという話を聞いたことがある。また、多様性に配慮はしているが一人一人に合ったものにはなっていないということも聞くので、十分検討できるようなこういった委員会で指針やチェックリストを作り、それをクリアした制服ができて、性自認に合った制服が着られるようにしたいと思った。
- ・ ホームページで11月からアンケートをやっているが、気をつけているのは、あまり質問を多くせずにとにかく自由記述をたくさん入れることである。私たちの場合 SNS で拡散しているので、そんなにたくさん集められてないし、中学生の声は少ない現状ですが、保護者の声は結構

集まっている。読んでいただければわかるが、制服が高いということと、あともう一つは、やはり登校時や登下校時にしか着用しないのにこれだけのものを買う必要があるのかどうかという声がある。

- ・市の調査に反映されていないと思っているのが、最近熱中症対策で体操服の登校を認めている学校が多くなっているということであり、夏服は買ったもののまだ1回も着ていないという学校もある。それが最初からわかっていれば夏服は買わなかったということ、あとは言われるがまま買うしかない状況だったという声もあった。
- ・私の子供の場合は、学校説明会の資料の中に、制服の生産が間に合わないから1月中までに制服の注文を済ませてくださいという表記があった。そうすると、何が必要かもわからないのに販売店に行って、言われるがまま買ってしまうということがあるのではないか。制服に関しては全く選択権がないというのは、やっぱり少しおかしいのではないかと思う。

(奥家委員長)

- ・今のお話の中でも、論点となるものがいくつか出てきていると思う。最後に出てきた制服がそもそも何なのかということも、ある程度切り込んでいく必要があるのではないか。
- ・それが全てではないかもしれないが、ご指摘いただいたとおり、本市の教育委員会として制服をいうものをこのように考えているということを示すことは大事だと考える。今のところ明確にそこを示せていない状況があるので、論点として議論が必要と思っている。
- ・併せてもう少し個別のところ、例えば価格や統一服の考え方ということも、必要な論点として挙げられていると思う。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・私たちのアンケートでも、すぐにジャージに着替えるなら制服はいらないのではないかという意見が複数寄せられていて、それなら制服は何のためにあるのかということは、やっぱり思う。

(奥家委員長)

- ・一方で、制服を廃止したらどうなるのかという議論もする必要があるのではと思う。制服が必要か、制服は何のためにあるのかということだけを見ていくこともあるが、制服が不要となったときにどうなるのかという反対側から議論を進めていく中で、着地点が見えてくるという可能性もあるのではないかと思う。
- ・制服というと1種類だが、実は夏服と冬服で状況が大きく違う部分があるということになると、ひとことで制服という議論もあるし、もう少し細かく冬服と夏服はどうなのかという議論もあり得る。

(浜松国際交流協会 岡田氏)

- ・外国人の立場から説明をさせていただきたい。イスラム圏の親から、娘さんがヒジャブを着たくないということで、中学校の制服を着て登校していて、それがすごく悲しいという話を聞いた。イスラム系の子の立場をさせていただきたいと思う。
- ・あとは夏目さんと同じ意見で、制服が高い。私はブラジルで生まれ育って、登下校だけ制服ということにはなかったので、長男が入学するときに本当にびっくりした。

(奥家委員長)

- ・ 本市の場合は外国人のお子さんがたくさんいる。イスラムの女性はヒジャブを着けることが宗教として求められていると思うが、例えば学校に何か問い合わせや相談などは実態としてあるのか。

(内山指導課長)

- ・ いろいろな行事等にヒジャブを着けて参加をしているということは、私たちも承知している。特段、それに関する悩みというのは直接受けてはいない。

(浜松国際交流協会 岡田氏)

- ・ それは学校の許可が欲しいのか、いらぬのか。

(内山指導課長)

- ・ 各家庭の考え方があるので、基本的には学校の方も認めているし、周りのお子さんもそれはわかって生活をしていると聞いている。

(奥家委員長)

- ・ 現状は、その学校の判断、制服に関する特例ということで、校長の裁量の中でオーバールールを認めているのではないかと思うが、もう少し詳しく見ていく必要はあると思う。
- ・ 外国人のお子さんの場合は、特有の事情がおそらくあると思うので、その辺も踏まえて制服はどうあるべきか、もし制服を着るようであればどういう制服を用意していくのかというところは、考えていく必要があると思う。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ 多様性が認められるというのではなくて、それが当たり前にあるという状態になっている。そういう景色が教室に広がっていると素敵だと思う。

(浜松男女共同参画推進協会 道喜理事長)

- ・ そもそも制服は何のためにあるのか、誰のためにこの検討委員会があるのかということが、よく軸がわからないというのが正直なところであった。
- ・ ひとり親のお父さんと生活している高校生の事例ではあるが、生理用品を自分のお小遣いやお年玉で買っていて、洋服も制服と街に行く用の服とジャージの3つしかないので、これで修学旅行に行けと言われて困るという相談があった。
- ・ 制服があるからこそみんなと同じ日常生活を送れている子が、その子だけではなく何人かいるという話を聞いて、制服をなくし私服にしまえばということもあるかとは思いますが、もしそうなった場合にどうなるのかと思う。
- ・ それからもう一つは、全体的に子供の人口が減っているということ。自分の娘が12歳だが、12年前から市で1年間に生まれる子供はおおよそ1,000人減っている。これがずっと続いていくことを考えると、制服自体を着る人数が減っているということになる。多様性に配慮した、選択

肢のある制服はもちろん素晴らしいと思うが、ロット数（同じ条件で製造される製品の数量の最小単位）が少なくなるので、制服の業者はつらいだろうと。また、ロット数が少なくなるとやはり単価は高くなるので、この制服のあり方を検討することは、意義があることだと思っている。

- ・ 自分の娘は小学生で、学校に行ったら制服を着替えている。小学生は汚すから着替えていると思っていたが、中学生も着替えるという話を聞いてびっくりした。もう中学生はそんなに汚すわけでもないのに、ずっと制服着てれればいいのではないか。

（浜松市PTA連絡協議会 今釜副会長）

- ・ あり方検討委員会という名称で、どのような話になっていくのかという不安や期待を膨らましている。
- ・ 自分は子供が5人いて、一番下の中学生の子供に制服についてどう思っているかを聞いたら、「いらぬ」と言っていた。制服がないと卒業式や入学式で困るのではないかと聞いたら、「ジャージと制服の間みたいなもの作ってくれと本当に嬉しい」と言っていた。
- ・ このあり方検討委員会が、大人の視点ではなくて子供の視点であることが一番大事だと思っている。
- ・ 先ほど今のジェンダーの状況を聞いて、正直びっくりした。区別がないということ自体が今の時代だと思うし、子供が自分の考えで選べるということは、これから先も必要だと思っているので、そういった話し合いが今後できればいいと思う。
- ・ また、皆さんが一様に言われていた、本当に制服はあるのかというところの議論をしてみたいと思う。

（奥家委員長）

- ・ ご指摘いただいたように、実際に着る子供たちの視点をまず中心に据えて、そこから近い人たちの意見もできるだけ丁寧に拾いながら、どういう方向があるのかを議論していきたいと思う。
- ・ もう一点忘れてはいけないのは、制服を作っている業者についてである。先ほど道喜さんからもお話しをいただいたが、制服を着る方の論理、理屈だけを考えた結果、コストはどうなるのか。着る側の子供たちの視点を中心にして議論を進めながらも、一方で業者側の状況はどうなっていくのかということも見据えながら、議論を進めないといけないと思っている。

（静岡県立大学 犬塚教授）

- ・ 浜松ではずっと昔からそうなのかどうかは存じ上げなかったが、登下校だけ制服を着て、学校では校内着に着替えるという慣行になっている。これでは制服に不要論というのも出てくるのもやむを得ないのではないか。
- ・ 道喜さんがおっしゃったように、ここまで議論して制服のことを検討していくのであれば、学校にいる間ずっと基本的には制服で過ごせばいいのではないかとということが単純にある。ただそれにはおそらく何かの理由があって着替えざるを得ないのだろうと思うので、その辺の理由を伺ってからでないとそれがいいかは断定できないが、全くの部外者として単純にそここの疑問である。
- ・ 先ほどからのコストの問題も出ているが、結局本当に登下校の時にしか着ないものであるのな

らば、それだけ高いお金を出す必要はない、制服はいらないのではないかという議論が出てくるのはいたって当然な気がしている。逆に一日中着ていなければいけないものだという事になれば、それだけの経費を出しても当然のものではないかと考えられるのではないかということである。

- ・ 今までのお話を聞いていると、制服をどのように検討していくかという時に、大きな考え方の枠組みとして二つあって、一つはやはり性の多様性、ジェンダーの方向での見直しということを中心とした制服の多様化という議論と、もう一つはコストの問題ということがあると思っている。
- ・ 新品は高いため、リユースのニーズも結構あるという話が夏目さんからあったが、そうになるとやはりある程度の統一性を持たせた、全市域で同じような制服を着ることの大事さはあると思う。
- ・ ただそのコストということに限って言うと、先ほど道喜さんがおっしゃったことに繋がると思うが、家族の多様化、それと同時に家族の間の格差の広がり、社会的には非常に懸念されている。お父さん、お母さん、子供が揃った核家族世帯は全国で25%程度しかなく、ひとり親家庭は10~20%程度と40年前に比べて倍増、単身世帯が40%と、非常に家族のあり方が多様化している。
- ・ 昔のようにお父さんがしっかり働いて家計を支えて、お母さんが専業主婦あるいはパートのような補助的な労働で家計を支えるということで十分生活が成り立っていた家庭はどんどん減ってきていて、特にひとり親家庭の増加は、生活困窮家庭、貧困家庭の増加にすごく直結している。
- ・ 先ほどのお話にもあったが、完全に制服はもういらぬ、自由化してしまえばいいのではないかという話になると、家庭内や家庭間でこれだけ格差が広がっている中で、やはり全ての家庭が毎日毎日子供さんの服、着替えを潤沢に持たせてあげられる状況ではない。公立中学校の制服の存在意義、なぜ制服を残すのかということにおいて、経済的な理由のウエイトが非常に大きくなっている。
- ・ 少なくとも制服一つあれば毎日着ていく服に悩まなくていい、そういうものにお金をかけなくていいという、そういった側面というのは以前に比べてさらに大きくなっているので、それを考えると制服の存在意義は、コストという面でも実はあるのではないか。
- ・ ただ、それを全部新品で揃えなくてはいけないのはあまりにも高いということで、そこはリユースを含め様々なやり方で工夫をしていく必要があるのではないかと話を聞いていて思ったところである。
- ・ ある程度統一したデザインの制服にすることによって、いろんなところで使い回しがきくが、多様化していけばいくほどロット数の関係で単価は高くなるという問題もあることから、最終的にはコスト面とのバランスというか落とすところを、いろいろなデータを見ながら現実的にどこかで考えていく必要があるのではないか。これは、これから制服に関わるコストを含めた様々な情報が出てきてから議論することだと思う。
- ・ もう一つは、性の多様性の問題である。鈴木げんさんがハード面とソフト面と両方という言い方をされていたが、性的マイノリティへの配慮としての制服の多様化というところに持っていくことだけは、くれぐれも避けなくてはならない。これメディアの方にもぜひお願いしたいと強調されていたが、私も全く同じで、やはりその方向性だけが目立ってしまうと、多様な制服

を自分から主体的に選ぶお子さんが、自らカミングアウトせざるを得ない状況に追い込まれるというリスクが非常に高い。

- ・ 主体的に自分の望む性自認の服を着て、それをみんなにも見てもらっても全然平気ということで、オープンにしていくトランスジェンダーのお子さんもいると思うが、様々なお子さんがいるということを当然想定しなくてはいけないので、非常に慎重に考えていく必要があると思う。
- ・ 制服の種類や統一するかしないかという問題、あるいはリユースやコストの問題とは別の次元として、学校に通っているお子さんや保護者の方、先生方はもちろんだが、その地域の皆さん方も含めて、制服の多様化をきっかけに多様な性のあり方、ジェンダーのあり方というものをもっともっと啓発していく。それを必ず並行してやっていかないと、一つ間違えると偏った性の観点だけに問題が収れんしてしまったり、当事者の意思を無視したり、その人が望まない形でカミングアウトせざるを得ない状況が生まれたりしてしまうという危険性がある。
- ・ 先ほどもマネキンのあり方や注文書のあり方について話があったが、私たちの社会では、ジェンダーのアンコンシャスバイアスがたくさんある。制服の問題をきっかけにして、アンコンシャスバイアス払拭のためのいろんな注意喚起をどんどんやっていき、性の多様性に対する理解度が進むという方向が、私は一番望ましいと思う。性的なあり方を問わず、それから格差社会の上下問わず、あらゆる人たちに関わる問題だという、それだけ広がり地域の中でどう巻き起こしていけるかが、この問題を今後どのように検討していくにせよ、ポイントになるのではないかと思う。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ 多様な性のあり方についてたくさんお話いただいたが、それだけではなくて、今回検討委員会に出席させていただくという話をしたら、感覚過敏の方からメッセージをいただいた。
- ・ 中学校のときにヤスリのような制服を着なければならなくてとてもきつかった。常に制服が気になるために学校の授業が全く耳に入らなかったと。その方の場合、最近になるまでそれが自分独自の苦しみだとは知らなくて、みんな苦しくてそわそわしているものだと思っていたようで、声として上がってきさえない。
- ・ その方のために別の選択肢として、肌触りの良いナイロンを選んだとしたら、今度は化学物質過敏症の方に影響が出る可能性もある。やはり人権の問題というか教育を受ける権利として、ジェンダーの話と同じように一人一人が苦しくない教育環境、選択肢がたくさんあることが、すごく大事だと思う。

(奥家委員長)

- ・ 子供たちが言えずに困っている部分があるのであれば、できるだけそこは払拭をしていく。それを制度としてやっていくのか、制度のある程度の運用を認める中で柔軟な対応で解決していくのか、そのあたり対応の仕方については、いろいろあると思う。
- ・ そうした子供たちがいるということが、この議論を進めていく中で見えてくるということは非常に重要なことで、少なくともこういう検討委員会をやった一つの意義みたいなものにもきつと繋がっていくのだろうと思っている。ぜひそういった声も聞かせていただけたらと思う。
- ・ 皆さんから様々なご意見、いろんな観点からのご指摘をいただいた。事務局の方で議事録を作りながら、論点の洗い出しをしていきたいと思っている。

- ・ たかが制服というものではないということは、皆さんの共通認識として持っていただけたのではないか。今後いろんな分野や領域に触れながら、模索しながらの議論となるかと思うが、皆さんからご意見をいただきながら、何とか前に進めていくということでご協力をいただきたい。

(2) 制服に関するアンケートについて

※資料 4、別紙 1 に基づき事務局から説明、その後質疑応答

(浜松国際交流協会 岡田氏)

- ・ 外国人の生徒さんは多分日本語ができると思うが、保護者の方は母語でないと回答できないと思う。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ 委員会で検討した中でこのような課題が出ていて、それに対して有識者からこんな意見が出てきていて、その上でどう思うかを聞いたら有効かと思う。
- ・ 新しい制服というものが何なのか、どんな制服なのか。それからリユース制服がいくらなのか、どのぐらいになる可能性があるのかということによっても、リユース制服への可否や賛否は分かれる。言葉の定義が人によって異なる状態の中でアンケートをするというのは、すごく曖昧だと思う。

(静岡県立大学 犬塚教授)

- ・ ここでどういう議論をしたとか、実はこういう方向で今考えているという、予見や予断を先見の情として出さないというのが客観的な調査の一番重要なポイントであり、そこはあえてやめた方がいい。そういうことは言わないで、できるだけ客観的に尋ねたほうがいいと思う。
- ・ 予見や予断なしに制服について率直にその人が今の時点で何を考えているかという部分を、客観的な情報として得るのが今回の目的だと思う。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ 例えば検討した上で、もう一度アンケートをとるということもありうるのか。

(静岡県立大学 犬塚教授)

- ・ 具体的に方向性が固まってきて、ついてはこの問題について改めて意見を聞いてみるという議論になってきたときに考えればいいことである。今回は最初の白紙の状態からの情報収集ということであるから、なるべくバイアスがつかからないほうが素情報としては一番必要だと思う。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 気になったのは、制服についてどう思うかとか漠然と聞かれたときに、子供たちは自分の学校の制服の話をするようになる。学校ごとに既にルールも形も違うということを前提に、こういったアンケートを取るとするのは問題がないのか。

(静岡県立大学 犬塚教授)

- ・ 学校の状況によって当然回答のバイアスが変わってくるので、どうしてこういう偏りがでたかという、実はこの学校では既にこういうことやっているからだということが、何らかの形で情報として担保できればよいのではないか。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 問4で「制服をやめて私服にした方がいい」とあるが、なぜ私服の選択肢が入ると制服をやめなければいけないのか。制服がありつつ私服を含めるという話もありなのではないか。

(奥家委員長)

そこは選択肢を追加するということで対応させていただく。

(浜松男女共同参画推進協会 道喜理事長)

- ・ 制服を着替えることについての質問項目がないので、学校行って着替えるってことについてどう思っているかを、保護者や子供にぜひ聞いてほしい。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ まず登校してきて人が見ている前でおもむろに制服を脱ぎはじめるので、参観会の時などに保護者はすごいびっくりする。子供たちは当たり前すぎてあまり認識がないし、保護者も見たことがないのであまり拾えないかもしれない。

(奥家委員長)

- ・ 制服を着替えることの実態が少し見えてくるような質問を加えていくということで整理をしたい。着替えることがルールだとすると、学校にも聞く必要がある。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ マイノリティの方が語りやすいように、私たちがアンケートを取ったときは、「困っていることがありますか・それは何ですか」という一文を入れた。

(事務局)

- ・ 自由記載の欄に「困っていること」という文言を追加させていただく。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 制服のことで困っているかどうか、子ども自身でわかっていないこともあるので、ここだけではないところでももう少し丁寧に声が拾えるといいのではないかなと思う。
- ・ アンケート結果が出てきたときに、円グラフで人数の大きいところはとても重要視されるが、人数の少ないところは省かれてしまうのではないかと少し怖く思っている。
- ・ 発達障害の子供たちや感覚過敏の子供たち、性的マイノリティの子供たちの声はとても小さいので、子どもや保護者自身がそれを言っているかどうかともわからない場合がある。これは自分だけのわがままだから人に言うてはいけないと思っていたり、制服は我慢するものだと思って

いたり、子供たちの声をどのくらい丁寧に拾えるかが重要だと思う。

(奥家委員長)

- ・ この検討委員会に限っていえば、アンケートをどう使っていかってということに関して言うと、円グラフの大きいところだけを拾って話を進めていくってことは多分ないだろうと思っている。多様性の話をしているのに、マジョリティのところまで議論が進んでいくとこれは何だということになる。
- ・ まずは、まっさらの中で皆さんがどういう意見や感覚を持っているのかというところが見えてくれば良くて、それを踏まえて多様な意見や困っているというところが、見えにくいけど実はあるということが出てくることも大事だと思う。
- ・ それを 100%全部解決するような制服を作るということは、なかなか現実論として困難であると思うが、それを制度で解決するのか、周りの柔軟な運用によって拾えることができるのかというようなところも含めて、できる限り広いところをカバーしていきたい。

(浜松国際交流協会 岡田氏)

- ・ ここでもうこのように決めたということではなくて、途中でもう一回皆さんの意見を聞いた方がいいと思う。

(奥家委員長)

- ・ 冒頭にあったゴールの話に関わってくるが、どういったものをここで示せるのかというのは、議論する中で見えてくると思う。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 次回までの宿題は、それぞれの課題や具体的な提案をまとめて持ってくるというイメージか。

(奥家委員長)

- ・ 次回には、アンケート結果を集計、分析してお示しする。それをご覧いただいて皆さんからご意見をいただく時に、それぞれの有識者の方々に繋がりのある方にリサーチなどをきてきていただいて、アンケート結果と付け合わせて議論ができるとよいと思う。

(浜松市PTA連絡協議会 今釜副会長)

- ・ 実態を調べる調査だと思うので、できれば自由に書く欄は大きく取っていただきたい。

(奥家委員長)

- ・ 自由記載のところは、一定の制約の中でということ踏まえていただきながら、たくさん書いていただけるような形にしたい。

(静岡県立大学 犬塚教授)

- ・ 書く意思のある子は絶対に来てくるので心配ないと思う。今まで無自覚だった子供たちが、制服の問題は確かにあるという気づきのきっかけになる。

(ミライ制服すすめ団 夏目氏)

- ・ アンケート調査の鑑文的なものを書く場合は、どのように呼びかけるのか。

(事務局)

- ・ 教育委員会として中学校の制服を今後どうしていくかを考える会を設置し、皆さんの意見を聞きながら検討していきたいため、率直なご意見を教えてほしい、というような説明をしたいと思う。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ このアンケートを出した後に、やっぱり修正や追加したいとなった場合もあるので、メールで提出できるようにしてはどうか。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ Google フォームは、後で修正できるかできないかを選択できる。その場合はアカウントが必要となる。

(事務局)

- ・ 子供たちはアカウントを持っているので、修正は可能である。